

参考資料3 意見交換会の結果

～～目次～～

1. 「みんないきもの大作戦！プレ作戦会議」（10/20 開催） → P1～
2. 「みんないきもの大作戦！キックオフイベント」（11/10 開催） → P4～
3. 「みなと区生物多様性勉強会」（自主活動）（12/7 開催） → P8～
4. 「あつまれ事業者！港区の生物多様性フォーラム」（自主活動）（1/25 開催） → P10～
5. 「みんないきもの大作戦！第2回いきもの作戦会議」（2/3 開催） → P14～
6. 意見交換会における区民意見のまとめ → P17～

1. 「みんないきもの大作戦！プレ作戦会議」（10/20 開催）

〔日時〕 平成 24 年 10 月 20 日（土） 13:30～16:30 （受付は 13:00～13:30）

〔場所〕 港区立エコプラザ

〔当日参加人数〕 8 名

〔ねらい〕

「港区生物多様性地域戦略」に関心を持ってもらい、継続的・主体的に関わってくれそうな区民を
発掘する

〔参加者のゴール〕

11 月 10 日のシンポジウムや、今後の「いきもの作戦会議」に参加してみよう、という気持ちになっ
ている

〔スタッフ〕

港区：高橋係長、遠藤主事

(株)環境指標生物：武田、中村、川口、桑原、阿子島

(有)ビーネイチャー：徳田（ファシリテーター）

NPO 法人地域自然情報ネットワーク：梶並

〔実施内容〕

実施 時間	内容	詳細
13:30	開会あいさつ	
13:35	主催者より趣旨説明	
13:40	チェックイン	お名前、活動、今日の期待など記入。
13:55	アイスブレイク	「港区のいきもの」に関するクイズ実施。
14:10	「生物多様性」を語ろう	
15:00	休憩	
15:10	「作戦会議」の今後を語ろ う	今後、区民会議を開いていくにあたって、どんな内容で、 どんな進め方ができたらいい？等、これからのための 話合いを実施。
16:00	キーワードを取り出そう	「今日の私のキーワード」（感想、印象に残った言葉な ど）を A4 白紙に記入。
16:05	チェックアウト	お名前、感想、今日の私のキーワードなど記入。
16:15	閉会あいさつ	シンポジウムの案内も実施。
16:20	アンケートのお願い	アンケート配布。

〔当日の様子〕

事前申込者は少なかったものの、途中参加等を含め、合計8名の参加者が集まりました。これに、港区職員や受託者スタッフが入り、15名程度の輪でワークショップを行いました。

「港区の生きものパネル展」を横に見ながら、丸太の椅子で輪になり、アットホームな雰囲気が始まりました。



全員で輪になっての意見交換



印象に残った言葉、感想を共有

自主的に勉強会を開いている人や、会社や団体に活動をしている人のほか、エコプラザで受付をしているシルバー人材センターの方や、観察会等に参加している区民等も参加されました。

第1部「生物多様性」を語ろう！では、参加者の生物多様性の認識を確認・共有することを目的としました。生物多様性の意味や認識について考えたり話し合ったりした結果、生物多様性は、「つながり」や「個性」などといったキーワードで表現されることや、広い意味での「自然」として言い換えることも可能である、等の意見が出てきました。

また、第一次産業と生物多様性とのつながりが深いこと、エコロジーとエコノミーが対立するか？環境にもよく、経済合理性もある！というのも可能ではといった意見もありました。

生物多様性を保全するための行動として、「移動は自転車」、「何を食べるか」を意識する、「合成洗剤をつかわない」、「ゴキブリ駆除をアシダカグモで」等の意見がありました。

とくに、ゴキブリ駆除の方法に関しては、個人の価値観、好みが大きく影響すること、生物多様性を保全するにあたって、価値観の違いは、様々な場面で大きく影響する可能性があることを共有しました。

第2部「作戦会議」の今後を語ろう！では、今後、「作戦会議」を進めていくうえで、参加しやすいやり方を検討するために、意見交換を行いました。

参加者が少数であったことから、「生物多様性」という言葉が人をひきつけないのではないか、「雰囲気を知ってもらうために、作戦会議の様子を公開するといいいのではないか」等の声がありました。また、室内でただ話し合いをするのではなく、野外観察や見学をしたあとに話し合うことが有効ではないか、との意見がありました。

テーマとしては、「港区で地産地消を考える」、「食べ物」、「農業」などは楽しくとっつきやすいとの声がありました。また、子ども対象ではどんぐり等を題材とするとわかりやすいとの意見がありました。

最後に、話し合いを通じて印象に残った言葉や感想等を、ひとりずつ紙に書いて発表し、共有しました。

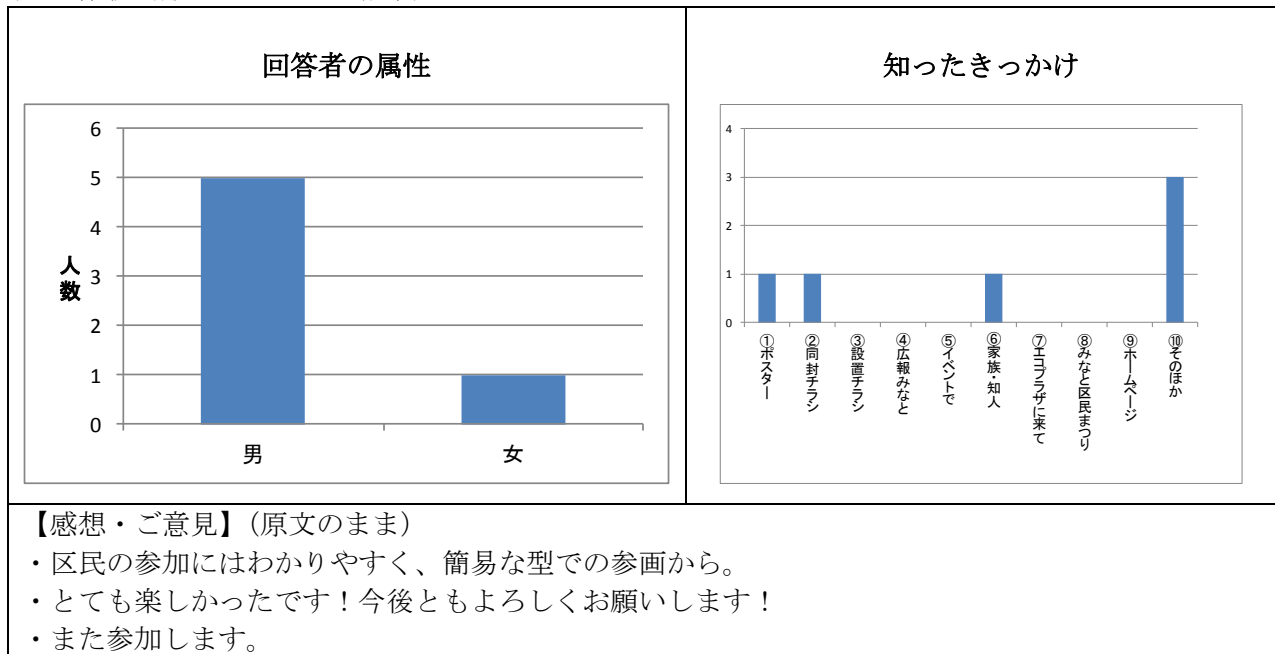
「運河で泳ぎたい」、「価値観のちがいがいい」、「つながり」等が印象的でした。また、感想としては、「いろんな方のつながりができてよかった」、「いろんなアイデアを持っている方とお話しできて楽しかった」等の声がありました。

「外来種は本当に悪いのか？」などの具体的な課題を指摘した参加者がいた一方で、「何を書いているかわからなかった」という方もいました。今回の参加者は、生物多様性に関する理解や認識、捉え方も様々でした。

参加者からは、楽しかった、今後も継続して参加したいといった声が聞かれ、生物多様性地域戦略に感心を持ってもらうとともに、今後のシンポジウムや作戦会議などへの参加を促すための良い布石になりました。

※意見の詳細は、17～19ページを参照してください。

[プレ作戦会議 アンケート結果]



2. 「みんないきもの大作戦！キックオフイベント」（11/10 開催）

〔日時〕 平成 24 年 11 月 10 日（土） 13:30～16:30 （受付は 13:00～13:30）

〔場所〕 港区立エコプラザ

〔当日参加人数〕 29 名のうち在住 12 名、在勤 8 名、区外 9 名

〔回収物〕

受付票回収枚数 23 枚

アンケート回収枚数 22 枚

MY 行動宣言回収枚数 19 枚

〔ねらい〕

「港区生物多様性地域戦略」の実施を周知し、区民等の参加者が主体的に関わるきっかけをつくること。

〔具体的な目標〕

- ① 港区生物多様性地域戦略とは何か、みんないきもの大作戦とは何かを理解できる
- ② 生物多様性とは何かを、なんとなく理解できる
- ③ 生物多様性という概念は、港区において身近な存在であることに気がつく
- ④ 港区生物多様性推進委員会の委員募集のお知らせを行う

〔話題提供者〕

中村俊彦先生（港区生物多様性推進委員会副委員長・千葉県立中央博物館）、

矢野亮先生（国立科学博物館附属自然教育園名誉研究員）、河野博先生（東京海洋大学教授）、

山田順之氏（鹿島建設株式会社）

〔ご協力いただいた推進委員〕

本田裕子先生（高崎経済大学助手）

〔ご協力いただいた専門家〕

川廷昌弘氏（株式会社博報堂）、草刈秀紀氏（WWF ジャパン）

〔スタッフ〕

港区：益口部長、亀田課長、高橋係長、遠藤主事、吉田主事

（株）環境指標生物：武田、中村、川口、桑原、阿子島、高木

（有）ビーネイチャー：鈴木、徳田、森、小川（ファシリテーター）

NPO 法人地域自然情報ネットワーク：梶並、井本

[実施内容]

実施時間	内容	詳細
13:00	開場・受付	資料配布。
13:30	副区長挨拶	
13:35	キックオフイベントの趣旨説明	みんないきもの大作戦！とは、地域戦略の必要性、イベントの目的などの説明。
13:40	第1部 シンポジウム	ミニ講演 矢野先生：「港区の自然と生きもの」 河野先生：「江戸前の海とお付き合いする方法」 山田氏：「ミツバチとヤギの視点で考える都市の生物多様性」 中村先生：「生物多様性とわたしたちの暮らし」
14:55	第2部の説明・ 専門家の先生の自己紹介	本田氏、川廷氏、草刈氏、武田氏の自己紹介。
15:05	休憩	となりの部屋に移動。 一部アンケート等回収。
15:20	第2部 いきもの作戦会議キック オフ！	4グループに分かれて、グループごとにディスカッション。 前半は、第1部を聴いて感じたこと・考えたことの共有。 後半は「港区の理想の将来をつくるために、あなたならどう関わっていききたいですか？」をテーマに対話。
16:10	共有	中村先生からのコメント。
16:20	お知らせ	区民委員募集、次回の開催、アンケート等のお願についてお知らせ。
	閉会の言葉	
16:30	終了	アンケート等回収。

[当日の様子]

参加者は、自主的に勉強会を開いている人や、会社や団体で活動をしている人、生きもの好きの人など多彩な顔ぶれでした。年齢層は20歳以上の大人が中心でしたが、親子連れ（小学4年生）の参加者もいました。また、在住者や在勤者だけでなく、生物多様性に関心の高い区外から参加者も多くみられました。

開始前には、「港区の生きものパネル展」を横に見ながら談笑するなど、にぎやかな雰囲気でした。

内藤副区長の挨拶を皮切りに、イベントは始まりました。



副区長の挨拶でイベント開始

第1部 シンポジウム

第1部では、矢野先生、河野先生、山田氏及び中村先生の4人の方の講演がありました。

自然教育園名誉研究員の矢野先生は、長年にわたって研究されているカワセミの繁殖生態についてお話しされました。臨場感あふれる写真と、ご自身の体



矢野先生によるカワセミのお話



中村先生による「生物多様性と私たちの暮らし」についてのお話

験談も交えたお話に、参加者一同釘付けとなっていました。

東京海洋大学教授の河野先生は、私たちが江戸前の海とどのように関わっていけばよいかということ、大学で研究されている東京湾の魚類と、現在取り組まれている江戸前ESDの活動を例にあげて話しされました。ユーモアあふれる解説ぶりに会場の笑いを誘うとともに、とかく忘れがちとなる海との関わり方について多くのヒントを与えて下さいました。

鹿島建設株式会社の山田氏は、都市と生物多様性というテーマについて、ヤギやミツバチといった生物を利用した取組を例に説明されました。都市生活者である港区民にとって重要なテーマとなる都市と自然との関わり方を、短い時間の中でわかりやすく解説して下さいました。

千葉県立中央博物館の中村先生は、「生物多様性と私たちの暮らし」というテーマで、生物多様性の現状、重要性、課題や戦略を進めていく上での論点をわかりやすく解説して下さいました。特に、自然との触れ合いが、子どもの感性の成長に重要な役割を果たしているというお話は、都市に生活する港区民にとって大きな問題と言えます。

短い時間ながらも内容の濃い講演に、参加された皆さんが熱心に耳を傾けて聞いている姿が印象的でした。第2部のいきもの作戦会議に臨むにあたって、効果的な情報提供の場となりました。

第2部 いきもの作戦会議キックオフ！

第2部では、生物多様性という概念の理解を深め、また港区の生物多様性地域戦略の作成にあたり、有意義な意見を得るため、赤チーム、青チーム、黄色チーム、緑チームの4グループに分かれて、次のテーマで話し合いを行いました。



グループごとに分かれて話し合い



各グループで出した意見を発表

①第1部を聞いて、どんなことを感じ、考えましたか？

②港区の理想の未来をつくるため、どう関わっていきたいですか？

なお、各グループにはファシリテーター（進行役）を配置し、活発な意見交換を促進しました。グループによっては、ファシリテーターの判断で、テーマを噛み砕いて設定しました。

※意見の詳細は、20～23 ページを参照してください。

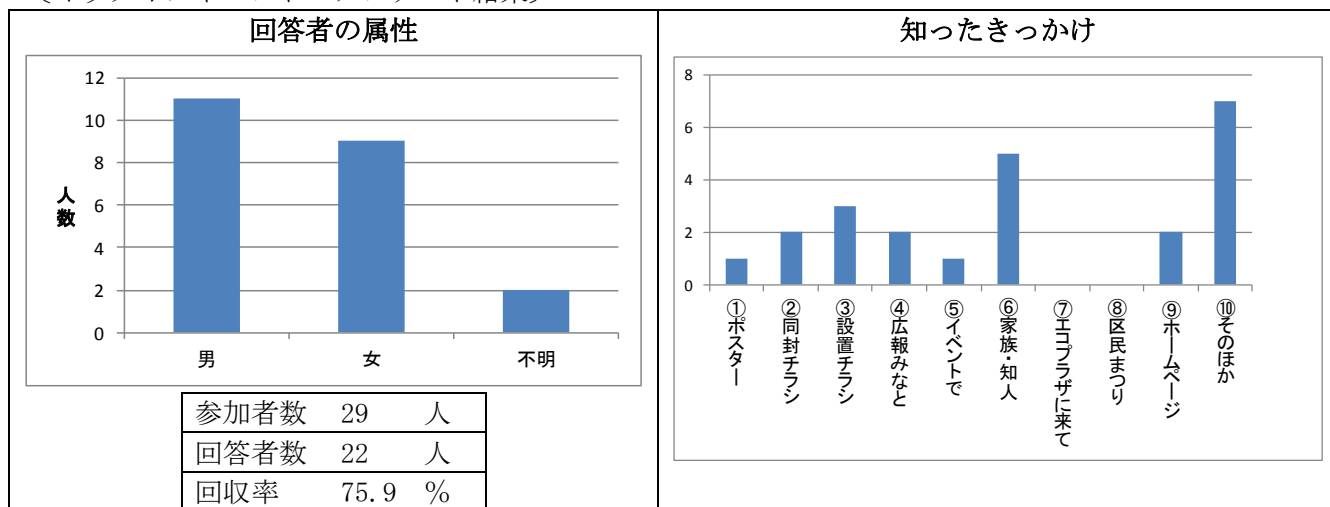
話し合いの最後に、各グループを代表して、専門家からグループで出した意見を発表していただきました。意見は様々で、チームそれぞれのカラーの出た、文字通り多様性に富んだ内容でした。なかでも小学4年生（最年少参加者）から出た意見が、生物多様性問題の根幹をつくもので、多くの参加者が感銘を受けた様子でした。イベントの最後には、中村先生から全体を総括したコメントをいただき、今回出た様々な意見について共有しました。



中村先生による総括コメント

参加者からは、戦略への積極的な参加を望む声や、身近な自然に興味を示すことができたといった意見が聞かれ、生物多様性に対する興味や関心を引き出し、生物多様性について考える有意義な場となりました。

[キックオフイベント アンケート結果]



【感想・ご意見】(原文のまま)

- ・ 外来種とのかかわり
- ・ 「外来性」という言葉がわかりづらい。生活（便利さ）と自然が相反するのをどのようにバランスをとって行くか。
- ・ 生きものの知識を得る事は、楽しいです。この様なイベントが、子供たちにも聞かせてあげたいと思いました。
- ・ わかりやすく、ユーモアのあるお話でした。楽しかったです。
- ・ このようなイベントに参加/活動する人が増えていくような地道なとりくみが必要。環境対経済でなく、それらが共存した戦略が港区に実現できれば、日本や世界に誇れるでしょう。
- ・ 広く公開されたイベントは非常に重要だと思います。
- ・ 単純に面白かったので、また参加したいです。
- ・ 大勢の方から身近なところから活発な意見が出ていて感心した。
- ・ 世界に誇れる戦略を期待しています。
- ・ 生物多様性に関するこのような普及・啓発イベントはとても意義があると感じた。講演の時間が短かったと感じた（1名1名の方の）。
- ・ 今日は、楽しすぎる時間でした。1部は、聞く事ができませんでした。ごめんなさい。先生方今日はどうも Thank you very much Teacher.
- ・ 本日は、途中からの参加となり、申しわけございませんでした。と共に先生方のお話を聞けずに非常に残念でございます。申しわけございません。次回は楽しみにしております。
- ・ こういうすばらしいイベントをやっていることをもっともっとPRして下さい。
- ・ みなさんのいろいろな考えを聞けて楽しかったです。区民の方の力を借りて良い戦略ができそうだなと感じました。
- ・ 生物多様性関連のイベントを増やして欲しい。

3. 「生物多様性勉強会」(12/7 開催)

[会の位置づけ] 中村副委員長による呼びかけにより行われた自主活動

[日時] 平成 24 年 12 月 7 日 (金) 18:30~20:30

[場所] 港区役所 (港区芝公園 1-5-25) 9 階 914・915 会議室

[参加人数] 18 名 うち在住 3 名、在勤 5 名、区外 7 名、不明 1 名、推進委員 2 名

[ねらい]

港区の生物多様性戦略をみんなで考え行動するため、生物多様性についての正しい知識を持ってもらい、参加者同士がつながり、活発な対話やネットワークが生まれること。

[話題提供者]

中村俊彦先生 (港区生物多様性推進委員会副委員長・千葉県立中央博物館)

[ご参加いただいた推進委員]

村上暁信先生 (筑波大学)、山田順之氏 (鹿島建設株式会社)

[ご参加いただいた専門家]

川廷昌弘氏 (株式会社博報堂)

[スタッフ]

港区：高橋係長、吉田主事

(株)環境指標生物：武田、中村、桑原、阿子島

(有)ビーネイチャー：鈴木

NPO 法人地域自然情報ネットワーク：梶並、井本

[実施内容]

実施時間	内容	詳細
18:30	開会あいさつ、趣旨説明等	高橋係長
18:35	第一部 話題提供	「子どもの成長と自然欠損障害」について (中村俊彦先生)
19:25	質疑応答	
19:35	休憩・移動	
19:40	第二部 意見交換	2 グループに分かれ、以下のテーマで意見交換 (各グループ 10 人程度) 1: 話題提供についての感想と自己紹介 2: 港区の生物多様性戦略で取り上げるべきこと。 子どもの視点、自然体験などについて
20:10	発表・質疑応答	各グループでまとめた意見の発表、質疑応答 今後の活動についての意見交換
20:25	今後の予定・事務連絡	
20:30	閉会	

〔当日の様子〕

事前申込みのあった参加者は15名でした。これに、区役所職員や受託者スタッフ、港区生物多様性地域戦略推進委員会の委員などが加わり、28名程度が会場に集まりました。

参加者の内訳は表のとおりです。このうち、キックオフイベント（11月10日）にも参加された方は3名でした。

第1部 話題提供

「子どもの成長と自然欠損障害」というテーマで、身近な自然との関わりが子どもの成長にとっていかに大切かを、科学的な根拠にもとづいてお話しいただきました。

日本の自然と日本人の心が密接に関係していること、子どもの自然体験と健康が深く関わっていること、脳の機能と人のこころの問題がIT社会に関係しており、自然体験の有無にも関係していること、豊かなこころを育むには、豊かな感性が必要で、それは豊かな体験と体感を社会環境と自然環境で得ることが重要であるということをお話されました。熱心にメモをとる参加者も多くみられました。

第2部 意見交換

後半は、スタッフも加わって2つのグループ（青チームと赤チーム）に分かれ、意見交換を行いました。テーマは、第1部の内容をうけて、その感想や自己紹介、港区の生物多様性地域戦略で取り上げるべきこと、子どもの視点、自然体験についてです。

自然体験と子どもの成長の関係性について肯定的な意見・感想が大半でした。

今の子ども達に自然を残しておくことができなかつたのは、大人の責任であると感じている方も複数人いました。なお、「障害」という表現は差別的な要素を含むので注意が必要だといった意見もありました。

現在の公園に対する問題提起も多く聞かれました。大人にとってよくても子どもにとってはよくない公園がありえるため、本当に良い公園を検討すべきといった意見や、子どもが自己責任で遊べる常設のプレイパーク等を求める声など、具体的な意見も出ていました。

また、今後の取り組みを考えるなかで必要なのは、自然体験に対する認識を変えてもらうということでした。大人の意識が変わることによって子どもが変わり、公園が変わるといった議論が交わされました。

さらに、港区の生物多様性地域戦略の策定については、「地域の評価を地図で見ることができるポテンシャルマップをつくり、様々な視点（生物・人材・歴史・地勢）を入れて考えていく」といった戦略作りの参考になる意見もありました。

意見交換は赤チーム、青チームで話題は多岐に渡りましたが、子どもが自然の中で遊べる環境を日常的に取り入れることが重要であるとの認識は共通した話題でした。

この勉強会は、活発な意見交換を通じて、身近な自然の大切さや、子どもの自然との関わりについて見直すきっかけとなったと言えます。また、港区の将来像やアクションプランを検討するうえでも、貴重な意見を得ることができました。
※意見の詳細は、24～26ページを参照してください。



中村先生による話題提供

区分	人数
港区在住	3
港区在勤	4
区外	8
計	15



意見交換会の様子



まとめの様子

4. 「あつまれ事業者！港区の生物多様性フォーラム」(1/25 開催)

[会の位置づけ] みんないきもの大作戦！の一貫としての港区の事業者による自主活動

[日時] 2013年1月25日(金) 13:00~17:30

[場所] 港区立エコプラザ

[参加人数] 82名 うち在住5名、在勤33名、区外41名、推進委員3名

[ねらい]

生物多様性に関する港区の事業者による情報交換やできることを話し合うこと。

また、港区の事業者による生物多様性宣言を行うこと。

[配付資料]

プログラム、MY 行動宣言

[ご参加いただいた推進委員] (実行委員会のメンバーを除く)

村上暁信先生(筑波大学)、草刈秀紀委員(WWF ジャパン)、榊中多賀子委員

[港区]

亀田課長、高橋係長、遠藤主事、吉田主事

[スタッフ]

実行委員会：川廷昌弘委員(博報堂)、峰崎善次委員(森ビル)、山田順之委員(鹿島建設)、唐澤由紀子(東芝)、宮本育昌(Cepa Japan)、藺巳晴(ノルド社会環境研究所：区外事業者)

Skype 中継技術担当：小泉学(横浜コミュニティデザイン・ラボ)

Ustream 中継技術担当：西村豊

事務局：武田、中村、川口、桑原、阿子島(環境指標生物)

梶並、井本(地域自然情報ネットワーク)

〔実施内容〕

実施時間	内容	詳細
12:30	受付開始	進行 文化放送 石川アナウンサー
13:00	来賓ご挨拶	環境省 生物多様性施策推進室 常富室長補佐 港区 環境リサイクル支援部 環境課 亀田課長
13:10	基調講演	「港区の地形と自然」東京スリバチ学会 副会長 石川初
13:35	スペシャルインタビュー	「自然崇拜と神社」赤坂氷川神社 宮司 恵川義昭 Skype 中継
14:00	事例発表	<ul style="list-style-type: none"> ● 「土地の記憶プロジェクト」 青山商店会連合会（青山一・二丁目商栄会） 市川博一 Skype 中継 ● 「気候変動への対応と環境保全 活動『NEC ネイチャークエスト in 芝公園』」 日本電気株式会社 CSR・環境推進本部 佐久間玲子 ● 「東芝府中事業所における生物多様性保全への取り組み」 株式会社東芝 社会インフラシステム社 環境担当 唐澤由紀子 ● 「お客さまへのおもてなしの心を屋上庭園で」 株式会社日比谷アメニス ソリューション営業部 水野妙子 <p style="text-align: center;">～お台場からの Skype 中継～</p> <p style="text-align: right;">解説 東京海洋大学 河野博</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「小鳥のオアシス都市に浮かぶ-oak omotesando-屋上緑化で JHEP 認証」 株式会社大林組 技術本部技術研究所 環境技術研究部課長 杉本英夫 ● 「小さな印刷会社にできる生物多様性活動」 カワセ印刷株式会社 代表取締役社長 川瀬健二 ● 「港区の地形特性と森ビルの街づくり」 森ビル株式会社 環境推進室室長 峰崎善次 <p style="text-align: right;">Skype 中継</p>
15:40	休憩	
15:55	グループ ディスカッション	<p>グループごとに意見交換</p> <p>都市づくりグループ 16名 進行：森ビル 峰崎さん</p> <p>ビオトープグループ 14名 進行：東芝 唐澤さん</p> <p>サプライチェーングループ 11名 進行：鹿島建設 山田さん</p> <p>くらしと自然グループ 13名 進行：富士ゼロックス 宮本さん</p>
17:00	グループ発表	
17:10	港区の事業者による 生物多様性宣言	小船井龍彦さん（明治学院大学）、川瀬さん（カワセ印刷株式会社）から亀田環境課長に、パネルを授与
17:20	フォトセッション	
17:25	閉会挨拶	みなと環境にやさしい事業者会議 嗟峨さん
17:30	終了	

〔当日の様子〕

事前申込みのあった参加者は 61 名でした。これに、当日参加の方、区役所職員や受託者スタッフ、港区生物多様性地域戦略推進委員会の委員などが加わり、参加者は 100 名を越えました。

参加者の内訳は表のとおりです。

区分	人数
港区在勤	33
港区在住	5
区外	41
計	79

■ 基調講演

「港区の地形と自然」というテーマで、東京スリバチ学会の副会長、石川初さんにご講演いただきました。地形とは何かということ、港区の多様な地形を題材に、わかりやすく説明して頂きました。下水管の配管が地形と関連していること、最後には洋式便器を「理性のインフラ」として示されるなど、ユーモアに富んだお話は、参加者を惹きつけました。



基調講演

■ スペシャルインタビュー

「自然崇拜と神社」というテーマで、赤坂氷川神社の恵川義昭宮司に登壇して頂きました。司会の石川アナウンサーの質問にお答えいただく形でインタビューは始まり、生物と崇拜の関係についてお話し頂きました。予定時間を超過するほど充実したインタビューでした。インタビューの中ほどからは、実行委員会のメンバーが現場から Skype による実況中継を行い、赤坂氷川神社の大イチョウをはじめとしたゆかりある樹木を紹介して頂きました。



スペシャルインタビュー

■ 事例発表

7 事業者が登壇し、それぞれの活動について、Skype による活動現場の実況中継を交え、報告がありました。前半は、地域の生物多様性保全について、青山商店会連合会（青山一・二丁目商栄会）、NEC と東芝から、自社の活動についての報告がありました。4 社目は日比谷アメニスで、デパートがお客様へのおもてなしとして整備した屋上緑化についての報告がありました。ここで、お台場からの Skype 中継を行いました。参加者として来られていた戦略推進委員の河野教授（東京海洋大学）に登壇をお願いし、お台場を始めとした東京湾の環境について解説して頂きました。突然のお願いにも関わらず、河野教授は快く登壇を引き受けて下さいました。



事例発表

その後、大林組が JHEP 認証、カワセ印刷の原料の調達をテーマとした報告と続き、最後は森ビルから、地形を生かした街づくりについての報告がありました。

1 時間 40 分にわたる長時間の事例報告でしたが、用意したイスが足りなくなるほどの盛況で、港区の事業者の有意義な情報交換の場になりました。

■グループディスカッション

第1部の事例報告を受けて、後半は、登壇者、実行委員会のメンバーも加わって、4つのテーマでグループに分かれて、意見交換を行いました。テーマは「都市づくり」、「ビオトープ」、「サプライチェーン」、「くらしと自然」です。

都市づくりグループでは、「このグループに参加した理由と、グループテーマの中で気になっていること」、「都市づくりと生物多様性」の2つのテーマでディスカッションを行い、最後に、「自然の高いポテンシャルを活かして緑視率世界一、生活とビジネスの調和した街をめざそう」という提言にまとめられました。

ビオトープグループでは、「まずは生物多様性とは?」、「どういったビオトープを作っていきたいか。どのような課題があるか」、の2つのテーマでディスカッションを行い、最後に、「ビオトープネットワークで土地の記憶を未来の子ども達につなげよう」という提言にまとめられました。

サプライチェーングループでは、言葉のなじみが薄く、4つのテーマのなかで最もわかりにくいとされていたテーマであるにもかかわらず、区内在勤者や区内在住者、区役所職員、認証制度に携わる方など、多様なメンバーに恵まれ、「生物多様性を保全し、持続可能な利用を行うためのサプライチェーン」について、多くの意見・アイデアが出ました。とくに「情報共有」、「勉強する機会を作るべき」といった意見を踏まえて、「企業、行政、区民が、情報共有を行い、港区版サプライチェーンの仕組みを作ろう」という提言にまとめられました。

くらしと自然グループでは、「今日の話聞いて、暮らしと自然というキーワードで印象に残ったこと」、「自然とは、何を指しているのか?」、「港区で残したい自然とは何か? (⇔身近な自然)」、「都市型自然も残したい。これから発展させていく自然」、の4つのテーマでディスカッションを行い、「港区に残された自然 新たにつくられた自然の命の輝きを再発見し、伝えていこう」という提言にまとめられました。

※意見の詳細は、27～31ページを参照してください。

■港区の事業者による生物多様性宣言～フォトセッション

グループディスカッションの結果を、各グループの進行が短文にまとめ、「港区の事業者による生物多様性宣言」として、パネルにおさめました。これを事業者の代表が、港区の亀田環境課長に授与し、司会者、登壇事業者と亀田環境課長が集まり、フォトセッションを行いました。

その後、みなと環境にやさしい事業者会議の嵯峨氏から、閉会挨拶がありました。その中で、今回のイベントのキャッチコピー「生物多様性が港区のためにできること、あります」の奥深さについて言及して頂き、イベントの裏方を務めた実行委員会（有志で集まった港区の事業者）メンバーの共感を得ていました。

最後に、「港区の事業者による生物多様性宣言」のパネル、森ビルが用意して下さった港区の地形のモデルを中心に、残っていた方全員で集合写真を撮影しました。

イベント後半は異様な盛り上がりがあり、港区の事業者の意識の高さが活かされ、その実行力が発揮されたイベントでした。

今回の事業者による自主活動により、事業者間のさまざまな情報交換の場になったとともに、事業者による生物多様性宣言が行われるなど、戦略を検討するうえで、大きな成果をあげることができました。



グループディスカッション



グループディスカッション



フォトセッション



イベントの最後に撮影した集合写真

5. 「みんないきもの大作戦！第2回いきもの作戦会議」（2/3 開催）

〔日時〕平成24年2月3日（日） 13:30～16:30 （受付は13:00～13:30）

〔場所〕港区立エコプラザ

〔参加人数〕21名 うち在住7名、在勤2名、区外8名、推進委員3名

〔回収物〕

受付票回収枚数 21枚

アンケート回収枚数 15枚

〔ねらい〕

区民をはじめとしたさまざまな主体と、「港区生物多様性地域戦略」に関する課題・目標・行動計画に関連する意見交換を行うこと

〔話題提供者〕

木上正士さん（(社)大日本水産会 マリンエコラベル事務局）

高橋京子さん（NPO法人NAFA 子育て環境支援センター専務理事）

徳倉康之さん（NPO法人ファザーリング・ジャパン事務局長）

〔ご協力いただいた推進委員〕

川廷昌弘氏（株式会社博報堂）、草刈秀紀氏（WWF ジャパン）、峰崎善次氏（森ビル）平川幸子氏、榊中多賀子氏、中村俊彦先生

〔スタッフ〕

港区：亀田課長、高橋係長、遠藤主事、吉田主事

（株）環境指標生物：武田、中村、桑原、阿子島、

（有）ビーネイチャー：鈴木、徳田、田頭、野口、飯島

NPO法人地域自然情報ネットワーク：梶並、井本

〔実施内容〕

実施時間	内容	詳細
13:00	開場・受付	資料配布等
13:30	開会のご挨拶	環境課長
13:40	イベントの趣旨説明	みんないきもの大作戦！とは、地域戦略の必要性、イベントの目的などの説明等
13:45	第1部 話題提供	木上正士さん：「食」 高橋京子さん：「子ども・子育て」 徳倉康之さん：「働きかた」
14:30	第2部の説明	
14:35	休憩	となりの部屋に移動。
14:45	第2部 テーマ別 「いきもの作戦会議」	「食」、「子ども・子育て」、「働きかた」の3グループに分かれて、グループごとにディスカッション。 前半は、第1部を聴いて感じたこと・考えたことの共有。 後半は「10年後、港区がどうなっているとうれしいか・そのために、私たちは何ができそうか」と「10年後に伝えたいメッセージは？」をテーマに対話。
16:00	まとめ・共有	コーディネーターの川廷委員と中村委員からコメント
16:25	お知らせ 閉会の言葉	次回の開催、アンケート等のお願いについてお知らせ。
16:30	終了	アンケート等回収。

〔当日の様子〕

参加者は、環境課のイベントに参加経験のある方や、港区の企業に勤めている方、また、在住者や在勤者だけでなく、生物多様性に関心の高い区外からの参加者も多くみられました。参加者の内訳は表のとおりです。

区分	人数
港区在勤	5
港区在住	7
区外	10
計	22

第一部 話題提供

第一部では、「食」、「子ども・子育て」、「働きかた」の3つのテーマから話題提供していただきました。

(社)大日本水産会 マリンエコラベル事務局の木上正士さんには、「食」をテーマに、「地域社会と生物多様性について食(魚)を通じて考えよう!」というお話をしていただきました。江戸前の生物多様性が産んだ5大食文化(握り寿司や天ぷらなど)のお話には、江戸時代の人と自然のかかわりかたを再確認させられました。また、愛知目標の一つにもなっている「持続的な漁業と生物多様性の両立」について、マリンエコラベルジャパンの取り組みをご紹介いただきました。

続いて、NPO 法人 NAFA 子育て環境支援センター専務理事の高橋京子さんには、「子ども・子育て」をテーマに、自然と子どもをつなぐためにはどうしたらよいか、といった視点でお話いただきました。子どもたちと自然をつなぐには、まずは指導者自身が楽しむこと、そして子どもたちの興味関心を大切にすること、子どもの発見や感動を共有できる大人になること、リスクマネジメントは現場から学ぶことなど、沢山のヒントをいただきました。また、「葉っぱジャンケン」など簡単にできる自然あそびも披露していただきました。

最後に、NPO 法人ファザーリング・ジャパン事務局長の徳倉康之さんには「働きかた」をテーマに、育児する父親のワークライフバランスについてお話いただきました。「夫婦で仕事と家庭の両立時代」がやってきており、父親が育児することによって出生率が上がり、女性の社会進出も増えるとのことでした。そこで、ワークライフマネジメントが必要になるということです。父親が変わると家庭・地域・企業そして社会が変わるということでした。



話題提供の様子



話題提供の様子

第二部 いきもの作戦会議

第二部が始まる前に、私たちのくらしと生物多様性という概念がどのように繋がるのかというお話を、当イベントのコーディネーター川廷委員による説明がありました。

「私たちのくらしと生物多様性とのつながりを想像することが重要なのです。こういった想像力をもって、この港区の生物多様性地域戦略を作っていくことが、港区の生活基本法のようなものを作っていくことになるのではないのでしょうか。」このように、意見交換のためのヒントが投げかけられ、作戦会議がスタートしました。



川廷委員の「つながり」

テーマは以下の3つです。

- ①このテーマを選んだ理由と第1部の感想
- ②10年後、「港区×テーマ」がどうなっていたら嬉しいか、そのために私たちは何ができそうか
- ③10年後に伝えたいメッセージは？

■グループ別のメッセージ

チーム	メッセージ
食	「自慢の出来る made in 港区の食品がいっぱいある」 「子ども頃から「どこから食べ物がきているか」が分かる。(生産者の顔がみえる)」
子ども・子育て	「こんな場で、 <u>伝承、教育</u> をできたらいいな～」 ・生命(いのち)にふれる場 ・ビオトープではなく、オールラウンドな場 ・「里山里海」 ・子供たちが自分の好奇心で自由にできる ・保育園・幼稚園の充実 ・いろんな世代がまざる ・リスクにもふれる ・子供が子供らしく助け合う
働きかた	「思いやり」「想像力」「多様な価値観の認め合い」 これらのキーワードまで揃ったが、メッセージにまとめられずに時間切れとなりました。

話し合いの最後に、各グループ発表を行いました。が、「働きかた」グループは、メッセージをまとめるまでに至らず、時間切れとなってしまいましたが、活発な意見交換がされていました。

最後に、中村副委員長と川廷委員から全体を総括したコメントをいただき、生物多様性とくらしとの繋がり大切さを再確認しました。ひとりひとりが生物多様性を「自分ごと化」(自分に関係のあることとして認識すること)できるよう、今後の大きなヒントになるイベントでした。

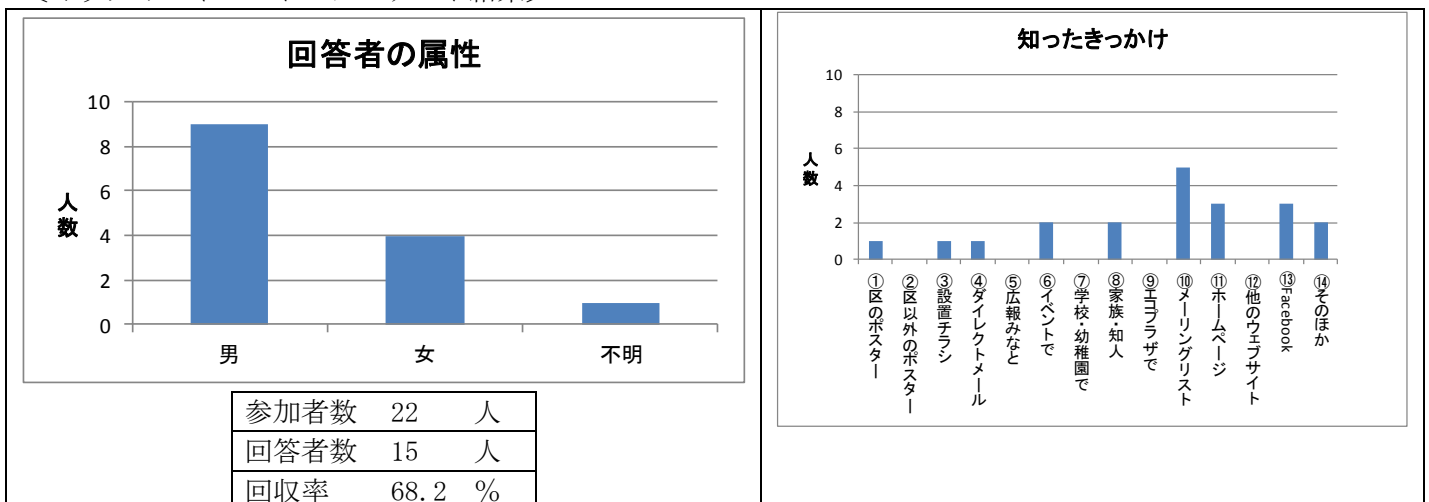


中村先生による総括コメント

今回は、「食」、「子ども・子育て」グループより10年後の目標イメージを得ることができました。「働きかた」では、「思いやり」などの生物多様性を考えるうえでも大切なキーワードを得ることができ、課題や行動計画に関わる意見も得ることができ、有意義な意見交換の場となりました。

※意見の詳細は、32～35 ページを参照してください。

〔キックオフイベント アンケート結果〕



【感想・ご意見】(原文のまま)

- ・ 生物多様性のイベントを子育てイベントや食育イベントなどでも広報して頂きたい。
- ・ 多様な話ができて有意義でした。
- ・ 大都会の港区でどのような地域戦略ができるのか期待しています。
- ・ プレー回は他の予定で参加できませんでした。6/8 も用事で参加できません 自主勉強会 自主会の開催を



「作戦会議」で出た意見をすべて掲載しています

1. 概要

「いきもの作戦会議」の本格始動の前に、「”生物多様性”について、ふだんどんなことを考えている?」といった、ざっくばらんな意見交換の場として、「プレいきもの作戦会議」を実施しました。

〔日時〕平成24年10月20日(土) 13:30~16:30

〔場所〕港区立エコプラザ

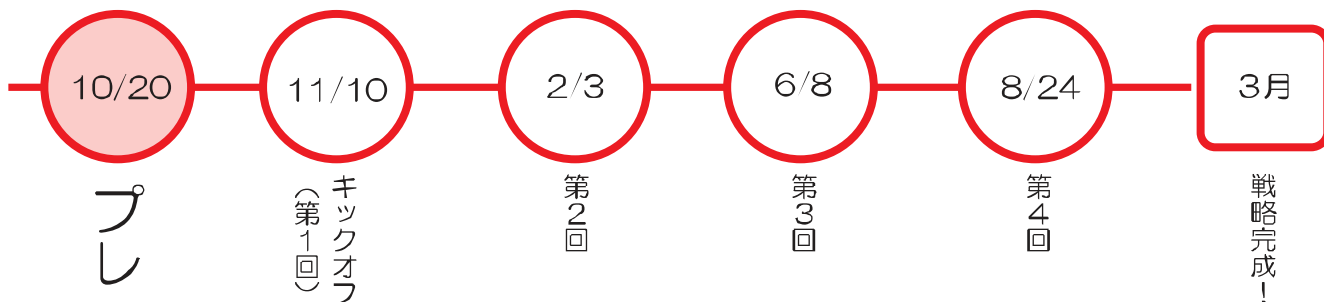
〔参加人数〕17名(スタッフも参加)

〔当日の流れ〕

- 13:30 開会
- 13:40 自己紹介・生物多様性クイズ
- 14:10 第1部 生物多様性を語ろう
- 15:10 第2部 「作戦会議」の今後を語ろう
- 16:00 印象に残った言葉・感想
- 16:30 閉会



〔いきもの作戦会議の流れ〕



2. 意見のまとめ

第1部 「生物多様性」にかかわることで、思うことをざっくばらんに話してみよう!

セイブツタヨウセイをめぐる、様々な話題が出てきました

①生物多様性について

そもそも、生物多様性って、何?

- ・生物多様性の3つのレベル
 - ①遺伝子 ②種 ③環境、生態系の多様性
- ・「いきものつながり」
- ・地形なども含めた概念
- ・「調和」、「自然」と呼ばれるもの

➡ いろいろな表現があることを確認しました!

②伝えたいこと

次世代に伝えたいこと

- ・子どもが自然を感じられる遊び。
- ・「生きものは単独では存在できないよ」ということ。

➡ 自然から学ぶべきことを次世代にも!

自然が壊れてきた過程を知る先輩へ。今後に向けて何かアドバイスはありますか? (20代から60代以上の方へ)

- ・「こういうことはしないほうがいいですよ」ということはあるが、「こうしましょう」ということは思いつかない。
- ・生きものがいなくなる原因は、あとから分かるもの。

➡ 「してはいけないこと」を未来に伝えることが大事!

③自然環境・生態系について

港区の環境に関わる認識は？

- ・ 港区で自然を感じることはあまりない。
- ・ 運河が汚くて残念。泳げるくらいきれいにしたい！
- ・ 街は、ヒトとカネはあるが、地面や空間がない。
- ・ 分断された緑をつなげたい！

自然の変化をどう捉える？

変化あり派

- ・ 微妙なバランスで保たれてきた、生態系などの「つながり」。その「つながり方」が、変化してきたのでは？
- ・ 外来種が増えて、生態系の一員になっていることもその一つ。
- ・ 生きものや生態系の「層」が単純化している？

変化なし派

昔は生きものが多かったって本当？そういうイメージがあるだけで、港区内ではそんなに変わっていないのでは。むしろ地方での変化が大きいのでは？



➡ **生態系がどのくらい変化してきたのか・・・ちゃんと把握する必要がありそうですね。**

外来種について

- ・ 外来種の侵入は、進化の過程の一端と考えると悪いものと言えない。侵入するスピードが早すぎるからダメなの？
- ・ 緑被率を上げるためには、外来種ではなく在来種を使った植栽を！

➡ **「そもそも、何がいけないの？」そんな疑問と、「これ以上増やさないために」といった対策案が出ました。**

※外来種とは：もともとその地域にいなかったが、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもののこと

④暮らし・ビジネスに関わること

エコビジネスの視点から

- ・ FSC認証・CO2の削減、オーガニックという視点が 関係ありそう。
- ・ 生物多様性に最も関連するのは、農林水産業といった第1次産業だ。
- ・ エコロジーとエコノミーは対立する？環境にもよく、経済合理性もある！というのも可能では？一致していないものが、課題として残っているだけ。
- ・ 認証関係は、「目的」と「手段」が逆転しないようにしなければ・・・。

➡ **いろいろな意見が出ました！**

エコな暮らしの視点から

エネルギー

自然エネルギー

環境に負荷をかけないので、持続可能。
→ 昔はホタルで灯りをとった。

消費量自体を減らす必要もある。

- ・ 移動は自転車で！
- ・ 輸送や生産に使うエネルギーが少ないものを意識して選ぶ。

化学物質

川や海の生物に影響がありそうな
合成洗剤は使わない！

生態系に悪影響があるほどの
強い化学物質をゴキブリ退治に使わない。

→ アシダカグモで退治するほうがエコ？

クモは嫌い！「どっちが好きか」価値観は人それぞれ。

→ **「生物多様性を守ろう！」という時に、価値観の違いが問題になる**
→ 場合によっては、誰かが我慢する必要がある。
行動のしかたもいろいろあってよくて、分散が必要か。

➡ **エコな暮らしの具体的な方法が出ました！
また、価値観や立場の違いから、どういう行動をとるかが変わってくることを再認識しました。**

第2部 これからの「作戦会議」、どうしていったらいいだろうか？

参加しやすい場をつくるためには？参加したみなさんの意見を聞きました。

参加者&スタッフの想い

もっとたくさんの人に来てもらいたい！
生物多様性に興味、関心が高くない人が参加してほしい！

【問題点】

- ・ 「生物多様性」という言葉が人をひきつけない。
- ・ 「いきもの大作戦」でもイメージがつかめない。
- ・ 意見交換会って堅苦しいイメージがある？

難しそうな印象が・・・

【対策案】

楽しいことをやる！伝える！

この場の和やかな雰囲気伝えよう！	作戦会議の記録を公開する。
現場があると楽しい！	「現場」があると、幅広い世代が楽しめるし、具体的なイメージを持てる！ <ul style="list-style-type: none">・ 子どもたちが参加しやすいイベント 例)「どんぐりひろい」・ 行ってみたい！と思えるイベント 例)「カワセミ観察会」
こんなテーマは楽しそう！	<ul style="list-style-type: none">・ 「港区で地産地消は可能か？」を考える（おいしく食べて、楽しく生きる）・ 「農業」が港区でできると楽しい！・ 「食べもの」は、とっつきやすい。・ 生物多様性をというよりも、「港区をどうしたいか」を語る。・ ビオトープやビルの緑地をどう活用したい・できるかを考える。
口コミで呼びかけを！	1人が5人連れてくる！（港区在住、在勤でなくてもOK！）

まとめ

印象に残った言葉・感想

【印象に残った言葉】

つながり

- ・ いきものは単独では生きられない。「つながりかた」を考えることの大切さ。
- ・ 関係性、調和、つながり。

価値観の違い

- ・ 様々な価値感を持った方々がいることを前提とすること。
- ・ 生物との共生を考えると、ガマンが必要なこともある。

自然

「生物多様性とは「自然」のことである」と考えると、わかりやすい！

【感想】

- ・ これから何を指すのか？多様な人々の多様なニーズがある。次の世代に何を残すべきか。
- ・ 楽しくできることをみんなではじめる活動できるフィールドは、どこにあるか？
- ・ いろんなアイデアを持っている方とお話しできて楽しかったです！
- ・ いろんな方のつながりができてよかった。
- ・ 生物多様性は、私たちの生活のいろいろな場面に深く関わっていて、地域戦略は、つまり、生物に関するものだけでなく、これからどういう社会を作っていくか、というものを描くものなのだなと感じました。
- ・ 生物多様性という言葉が難しい！

3. おわりに

今回は、様々な話題へと発展し、生物多様性は幅広い概念であることを再認識しました。また、より気軽に生物多様性を考える場をつくるには、楽しさや身近さを伝える必要があるということがわかりました。



「作戦会議」で出た意見をすべて掲載しています

1. 概要

「港区生物多様性地域戦略」の実施を周知し、区民等の参加者が主体的に関わるきっかけをつくるために、専門家の講演と区民会議（いきもの作戦会議）からなるイベントを実施しました。生物多様性という概念を、楽しみながら学ぶと同時に、その大切さを参加者で共有することができました。また、港区生物多様性推進委員会の委員募集もここで行われました。

- 〔日時〕 平成24年11月10日（土） 13:30～16:30
- 〔場所〕 港区立エコプラザ
- 〔参加人数〕 29名
- 〔当日の流れ〕



〔同時開催：港区のいきものパネル展〕

- 13:30 開会・副区長のご挨拶
- 13:40 第1部 ミニ講演
 - 矢野亮先生：「港区の自然と生きもの」
 - 河野博先生：「江戸前の海とお付き合いする方法」
 - 山田順之さん：「ミツバチとヤギの視点で考える都市の生物多様性」
 - 中村俊彦先生：「生物多様性とわたしたちの暮らし」
- 15:20 第2部 いきもの作戦会議開始
- 16:10 各グループの発表・共有
- 16:20 お知らせ
- 16:30 閉会



ミニ講演の様子

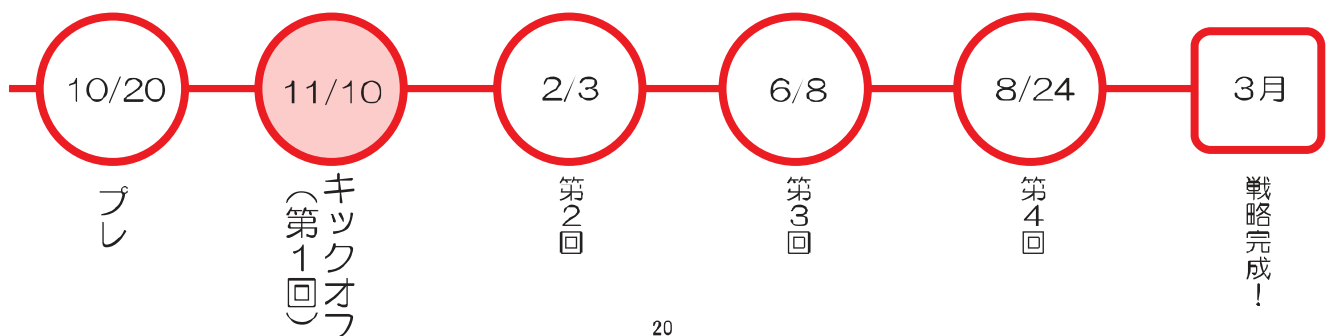


いきもの作戦会議の様子



いきもの作戦会議の様子

〔いきもの作戦会議の流れ〕



2. 意見のまとめ

第1部のミニ講演を聞いて、第2部では「作戦会議」を行いました。
赤・青・黄・緑の4チームに分かれて、ファシリテーターの進行のもと、次のテーマで意見を出し合いました。ここでは、チームごとに、出た意見を紹介します。

赤チーム 意見のまとめ

専門家：本田先生・草刈さん 参加者：7名

第1部を聞いて感じたことや意見

感想

- ・海は陸の自然に比べて忘れられがち。
- ・子ども達の自然への理解が重要！
- ・生物多様性は「生きものの調和」！
- ・こんなにたくさんの生きものが港区にいるとは驚き！メダカはどこにいるのだろう？今後も、いろいろな街づくりをすればいいんじゃない！

港区で生物多様性について、感じる事

- ・ **港区では身近に生物多様性を感じない！**
港区では食べ物作っていないし、ヤマネコのような希少な動物もいない。
- ・ 役所で**戦略のこと聞いてもよく分からない！**一から戦略を作っているところを見たい！自分で何が出来るかな？
- ・ **生物多様性は、なじみがない**…でも聞けば聞くほど楽しい！！みんなにも知ってほしい。
これからも、いろいろやりたい。
- ・ 雑草や園芸植物も含めて、**身近な植物から生物多様性を感じる。**
→庭は生物多様性を感じられる大事な場所！
庭の有無が、大人になってからの自然に対する考え方の違いを生む。**庭がほしい！**
- ・ 港区は、プラタナスグンバイなど、**外来種が多い。**
- ・ **社内で生物多様性を広げたい！**生物多様性を知っている人はどれだけいる？
戦略づくりの始めから関わりたい！

生物多様性をどうしたら広められる？

- ・ クラインガルテンの考え方を参考にする。
- ・ 「いきものみつけ」（環境省で実施している市民参加型生物調査）をする。
- ・ 自然大好きクラブ、国立公園全国ライブカメラを参考に。
- ・ 地域を盛り上げるために、お祭りをする。
- ・ いろんなことを、まずは自分がやっている、次第に人がついてくるようになる。
- ・ 海や身近なところにいる生きものや自然を、子ども、家族、知り合いに伝える。

生物多様性のためにできること

大切なのは・・・

自然観を育てること！！ ➡

そのためにできること

季節を感じる	鉢植えからでも感じられる！
自然の流れにあった活動	地産地消をする、旬のものをいただく。
ちょっとした自然体験	野菜づくり・ゴーヤづくり。
自然体でいること	そもそも人は自然が好きなのは、自然体でいれば、自然を感じられる。

第1部を聞いて感じたことや意見

感想

- ・カワセミ、魚など、港区には色々な生きものがいることがわかり、面白かった。
- ・カワセミの赤ちゃんの餌の順番待ちは面白い！新しいことを知ると次につながる。
- ・港区の自然を知らなかったなので、今後調べたい！

港区の特徴

- ・港区は、目黒区と比べて、緑が多い！
- ・世界とのつながりという点で港区だけでは完結しない。港区は世界に開かれたところ。
- ・港区は都会でありつつ公園も多い、住みやすいところ。
- ・高速道路の近くは空気が悪い。古川はカラスが多いが、生物多様性は低いのかな？
- ・大人が散歩する自然はあるが、子どもが自由に遊べる自然がない！

都市と生物多様性について

- ・都市の中で自然を実感できる機会が大切では。
- ・経済と生物多様性は相反する…とは限らないのでは？（ex.シンガポール）

生物多様性のためにできること

子どもの教育、体験の機会を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼ遊びなど、子どもの頃から自然にふれる機会を。 ・ジャングル遊び、木登りや、ツリーハウスなどができる場を。 ・「みなと区民の森」を利用した環境学習の定員を増やす。
大人への教育	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も生物とのつながりに対する想像力を養う必要がある。 →小学校で自然教育があるが、中学・高校と少なくなっていく。 →大人が自然に親しむ、学ぶ場をつくる。
公園管理を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・公園は、きれいに刈り込む管理だけでなく、子どもが自然と触れ合える余地を残した管理を！
ゴミを減らす ・エネルギーを使わない	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を増やすために、ゴミを減らす努力をする。 ・動物が増えないので、眠らない街を減らす。 ・電気・ガスを使わないようにする（昔は、それらがなくても上手に自分たちで協力して過ごしていたから）。
自然や動物の気持ちを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・人間は、自然や動物の気持ちを分からないといけない！
港区と他地域とのつながりをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域から遊びに来た人に、自然のある場所を見てもらう。

黄チーム 意見のまとめ

第1部を聞いて感じたことや意見

感想

- ・東京に予想以上に生きものがいるのが分かった。歴史の話も関心がある。
- ・生物多様性という言葉がわかりにくい。
- ・カワセミの研究が進んでいるのが印象的。餌の食べ方や金魚の話。江戸前の話も面白かった。
- ・カワセミはどうなっていくのか。ヒナの行く先が気になった。

港区の特徴

- ・台場は自然の海ではないが、生きものが多い。
- DASH海岸のような取り組みが面白いのでは。
- 第六台場にウが集まり、フンが問題となっている。
- ・港区は自然や公園が多い印象。

情報が欲しい！

- ・自然教育園のことを初めて知った。働いている人には情報が少ないのでは。知らない自然のスポットをもっと知りたい。

生物多様性のためにできること

昔のことを知る	世代間交流して対話をする。
魚の種類を増やす	水をきれいにする活動をする。
昔いた魚を戻す	100年前には東京湾にもサワラがいた。在来種を導入しよう！
身近な生きものを伝える	「港区のみどり生きもの2010」を小学生全員に配る。
地道に続ける	港区みどりの活動員のような地道な活動を。
情報を広げる	広報みなどを企業に配布。区内の自然情報の発信。

緑チーム 意見のまとめ

第1部を聞いて感じたことや意見

専門家：中村先生・山田さん 参加者：7名

感想

- ・カワセミが印象的。カワセミが港区にもいること、その調査内容に驚いた。
- ・港区は大都会と思っていたけど、生き物がたくさんいるんだ！
- ・「多様性ごはん」という言葉が印象的。

港区の特徴

- ・港区には大使館が多くある。関わるのか？関わないのか？興味がある。
- ・港区の人工のうち、90%が事業者、10%が住民というアンバランスさ。もっと事業者に関わってもらいたい。
- ・港区は多様な人種、遊びの場があり、自然教育園など調査研究も行われていてモデルになりえる。

戦略について

- ・戦略は、どのくらいのスケールで考えるのか？私たちの暮らしや生き方も含めて考えた方がいいのかなあ。
- ・行政としての5年計画はあるが、市民レベルで10年～20年先を考えるべき。
- ・ビジネスは勝負。生命は引き継ぐもの。時間的スケールを使い分けて考えるべき。

生きもののシンボル化・ブランド化

- ・カワセミ、魚、ヤギ、みつばち。一つずつアイキャッチャー（人の目をひきつけるもの）にしたらいいと思った。
- ・東京湾のスターはアユ、スズキかな。
- ・港区ブランドのアユもあり。地元でとれたものをブランド化したい。バナナを生産していないのに、「東京バナナ」はアイロニカル（皮肉）。

ライフスタイルについて

- ・我々のライフスタイルは変えていかないと子ども達に幸せな生活を残せない。
- ・港区にいて健康になりたい。おいしいものを食べたい。楽しく遊びたい。

昔と比べて・・・

- ・以前は、古川の金杉橋にも雑魚が来た。海苔も作っていた。昔と比べると様変わり。生物多様性と正反対のことをやっている印象がある。

自然との触れ合いが大事！

- ・自然と触れあうことが大事！とくに子ども。心を養うことができる。
- ・みつばちはピロードみたい。ヤギはパフみたい。子どもたちが、実際に触れて、そういう感触を知ってもらえれば、生きものに対する親しみが湧くと思う。

生物多様性のためにできること

どんな港区をめざしたい？

- ・経済もあるけど、生物多様性もある港区
- ・若い人、子育て世代が住める港区
- ・足もとの自然を感じられる港区
(人々に自然があると実感されている)
- ・ビルの中に自然が盛り込まれている。
- ・田畑などの食が感じられる空間利用がされている。
- ・自転車通勤、太陽光・風・地中熱発電などが増え、
オフィス空間の中で、自然を感じる、意識している。



そのためにどうしたらいい？

- ・足もとの自然を見る会を実施。国際的にもアピールする。
- ・学校やオフィスで、港区産の食料を使ったランチ会
→港区産のものがなくても、「作っていない」ことがわかっていい。
- ・大使館を気軽に訪ね、生物多様性について聞く。
- ・東京タワーを緑化したり、木造にしよう。
- ・人のネットワークの構築や、行政との協働



1. 概要

11月10日に行われたキックオフイベントから派生した自主活動として、中村俊彦先生が勉強会を開いてくださいました。テーマは「子どもの成長と自然欠損障害」についてです。中村先生の講演の後、2つのグループに分れて、問題意識の共有や将来への願望などについて、全員で意見交換を行いました。

- 〔日時〕平成24年12月7日(金) 18:30~20:30
- 〔場所〕港区役所9階 914・915会議室
- 〔参加人数〕18名
- 〔当日の流れ〕



講演の様子

- 18:30 開会のご挨拶・趣旨説明
- 18:35 第1部 中村俊彦先生：「子どもの成長と自然欠損障害」について
- 19:40 第2部 意見交換会
- 20:10 各グループの発表・質疑応答
- 20:25 お知らせ
- 20:30 閉会

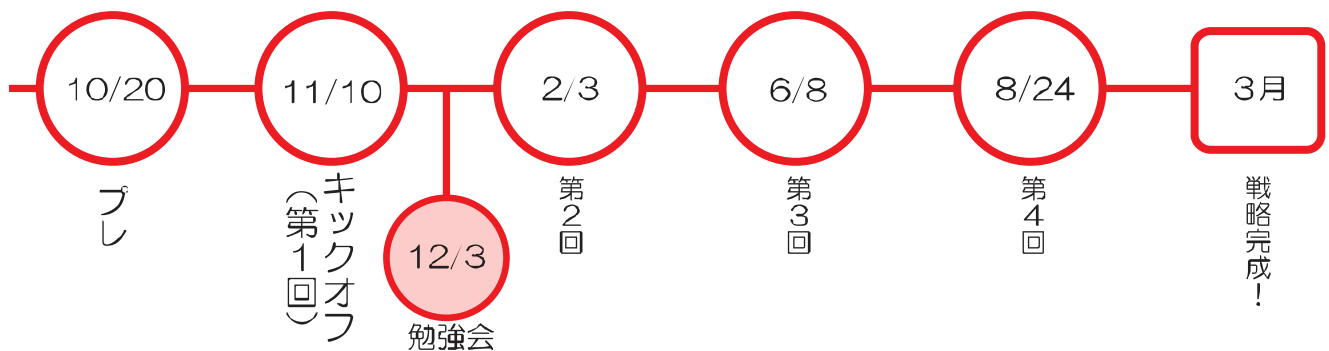


意見交換会の様子(赤グループ)



意見交換会の様子(青グループ)

〔いきもの作戦会議の流れ〕



2. 意見のまとめ

2つのグループ(青チームと赤チーム)に分かれ、意見交換を行いました。ここではチームごとに、出た意見を紹介します。はじめに自己紹介をし、それぞれ自由に意見を交換しました。

第1部の内容をうけて、その感想など

専門家：山田さん 参加者：10

感想

- ・キレイすぎることは疑問だ。
- ・「障害」という言葉は差別的かもしれない。
- ・多面的な分野が横系でつながっていく事が重要と感じた。
- ・脳と自然の複雑性が一緒であることが印象的だった。
- ・江東区生まれだけれど、昔は自然があった。その中で育つのとそうじゃないのでは違うんじゃないかと思っていたが、なるほどという感じだった。
- ・生きものとのつながりがあった時代に生きていた世代は幸せだと思った。
- ・いい世代に育った大人が次世代に伝えられなかったという責任がある。
- ・昔は毛虫 OK だったのに、大人になるにつれ、ある時期に、急に気持ち悪いものになった！ということ思い出した。

自然と子どもについて思うところ

- ・集団あそびや自然あそびの欠如を感じる。
- ・子どもたちは自然を通して自発的な動きをするので、機会があれば自然遊びをやると思う。そこに大人のリードはいらないのではないかな。
- ・タンポポ世代、ザリガニ世代といった話があったが、昔から外来種と親しんでいたということか。
- ・世代間で交流して遊ぶのが大切！
- ・土の感覚が嫌な子もいる。今の子どもは皮膚の感覚が変わってきている？
- ・自然欠損障害は、子どもだけでなく、大人にも言えるのではないかな？
- ・子どもは意外に関心を持たない？教育から生物多様性を考え合う必要がある。

その他

- ・学校ビオトープに関わりたい。

港区の生物多様性地域戦略で取り上げるべきこと、子ども、視点、自然体験についてなど

着眼点

- ・港区は坂が多いので、原地形が見えるような話が港区らしい戦略になるのでは？
- ・大人（特にお母さん）が変わると、公園も変わるのでは？（関心の低い、自然体験の少ないお母さんを対象に）
- ・本当にいい公園とはなにか？

課題・問題点

- ・大人は子どものことをよく知らないダメ。
- ・学区内の自然度を高めることを大人がしなくては！大人が努力をするべき。
- ・都会の公園は落ち葉や種がなくて困ったことがある。自然観察すらできない場合がある。（公園の清掃で落ち葉等がキレイに片づけられてしまうことが問題と感じている）

大人と子どもが自然のことを考える機会を得るには？

- ・大人が子どもと一緒に汚れてみる体験からはじめる。
- ・子どもは遊び場を自分で見つけられるはずだから、子ども自身が遊び場を見つけれられるマップづくりをすれば？そうしたら大人も把握できる。
- ・草ぼうぼう・教育園のような粗放的な管理の公園がほしい。
- ・子どもたちで原っぱを作るなどの成功体験をさせる。
- ・イベントに頼りたくないが、イベントが手っ取り早い。
- ・イベントを実施しても、だんだん決まった顔ぶれになってしまう。一般受けするようなイベントの最後に自然体験を組み込んでいくとよいのでは。

昔はよかったという声が多かった。昔を振り返るのではなく、未来に活かそう、教育の場に伝えよう！

こんなことばでしめくられました。

第1部の内容をうけて、その感想など

- ・「自然欠損障害」という表現は、言い過ぎでは？
- ・科学的な根拠はわかりやすい。
- ・子どもの情操教育や習い事を語るうえで「脳」というキーワードが使われすぎでは？
- ・ある企業の研修所脇の保育園では、自然体験できる場所があった。しかし、今は開発されそうになっている。また、場所があっても立ち入り出来ない。企業にとっての生物多様性とは何か？
- ・アスペルガー症候群やADHDなどの方たちが体験を通して変わったという話がある。港区でも自然体験ができる場があるといいと思った。
- ・脳の機能が自然体験と関わり有るということと、生物多様性をつなげるのは無理があるのでは。

港区の自然について

- ・ 地方出身なので（港区に自然は）少ないと感じる。
- ・ 東京も自然の一部である、という考え方をすると、無理に樹林を創出して、港区にそぐわないことをするのはナンセンスなのでは？港区でできることを追求するべきでは？
- ・ 港区の特性の中で自然を楽しむべき。
- ・ 自然と生物多様性、自然の少ない港区といまいち合致しない。
- ・ 自然に境界線はない。水ひとつとっても流域という視点が必要。

自然体験について

- ・ 土が汚い、落ち葉はゴミ、といった認識は悲しい。
- ・ 子どもが自然の中での遊び方を知らない。
- ・ 自然にあるものを使って、五感を使って自然体験をするといい。
- ・ 観察会のような気軽な自然との触れ合いを選択できるような状況がいい。
- ・ 待機児童が多いことが、子どもが外で遊ぶ機会を減らしているのでは？
- ・ シートを敷いておにぎりを食べる場がない。
- ・ 子どもは場があれば勝手に遊ぶので、そんな場が必要では？
- ・ 自然体験はおまけでない。教育に取り入れる必要があるのでは。

港区で今後私たちはどういうことをしていってほしいか

場をつくる

- ・ 常設のプレイパーク。
 - ・ 自己責任で遊べる場所。
 - ・ 自由に遊べる場所は必要。
- ※ 生物の保全を考えた場合は規制も必要。

ポテンシャルマップをつくる

- 生物・（イトトンボなどの）指標種・人材
 - ・ 歴史・地勢など、様々な視点をいれる。
- それぞれの地域がどのような地域なのか
評価できるようなマップがある。

場所をつなぐ。



港区生物多様性地域戦略 みんないきもの大作戦！（自主活動） あつまれ事業者！港区の生物多様性フォーラム 意見のまとめ

「作戦会議」で出た意見をすべて掲載しています

1. 概要

11月10日に行われたキックオフイベントから派生した自主活動として、港区の企業が中心となって「港区生物多様性事業者フォーラム」を組織し、今回のイベントを開催しました。港区の事業者が、生物多様性に関して情報を交換しながら「何ができるか」を話し合い、港区の事業者による生物多様性宣言を行うことができました。

〔日時〕平成25年1月25日（金） 13:00～17:30
〔場所〕港区立エコプラザ
〔参加人数〕79名
〔当日の流れ〕



グループディスカッションの様子

- 13:00 開会・来賓ご挨拶
- 13:10 基調講演 東京スリパチ学会 副会長 石川初さん「港区の地形と自然」
- 13:35 スペシャルインタビュー（Skype中継）「自然崇拝と神社」赤坂氷川神社 宮司 恵川義昭
- 14:00 事例発表（Skype中継）
 - 青山商店会連合会（青山一・二丁目商栄会）市川博一さん 「土地の記憶プロジェクト」
 - 日本電気株式会社 CSR・環境推進本部 佐久間玲子さん
「気候変動への対応と環境保全 活動『NECネイチャークエスト in 芝公園』」
 - 株式会社東芝 社会インフラシステム社 環境担当 唐澤由紀子さん
「東芝府中事業所における生物多様性保全への取り組み」
 - 株式会社日比谷アメニス ソリューション営業部 水野妙子さん
「お客さまへのおもてなしの心を屋上庭園で」
- ～お台場からのSkype中継～ 解説 東京海洋大学 河野博先生
- 株式会社大林組 技術本部技術研究所 環境技術研究部課長 杉本英夫さん
「小鳥のオアシス都市に浮かぶ-oak omotesando-屋上緑化でJHEP認証」
- カワセ印刷株式会社 代表取締役社長 川瀬健二さん
「小さな印刷会社にできる生物多様性活動」
- 森ビル株式会社 環境推進室室長 峰崎善次さん
「港区の地形特性と森ビルの街づくり」
- 15:55 グループディスカッション
- 17:00 各グループの発表
- 17:10 港区の事業者による生物多様性宣言 ～ フォトセッション
- 17:25 閉会のご挨拶 みなと環境にやさしい事業者会議（MECC） 嵯峨生馬さん
- 17:30 閉会



事例発表の様子

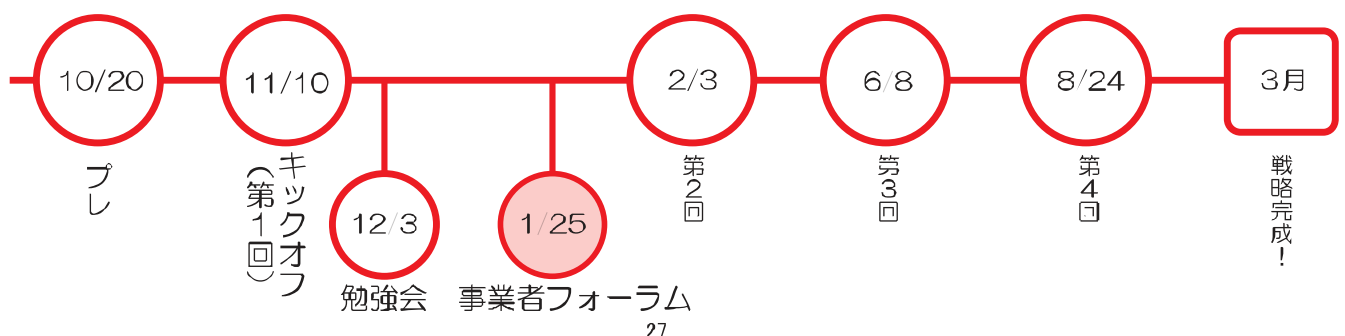


フォトセッションの様子



集合写真

〔いきもの作戦会議の流れ〕



2. 意見のまとめ

基調講演や事例発表などをうけて、登壇者と実行委員会のメンバーも加わって、4つのテーマでグループに分かれて、意見交換を行いました。テーマは「都市づくり」、「ビオトープ」、「サプライチェーン」、「くらしと自然」です。それぞれのグループの意見をご紹介します。

「ビオトープ」グループ 意見のまとめ

登壇者：唐澤さん・佐久間さん・市川さん 参加者：13名

生物多様性とは？

- ・条文では「いろんな生物がいることが生物多様性」とは一言も書いていない。
- ・すべての生物が持っている変異性であり、いろんな環境に対応できるということが重要。持続ができるということが生物多様性のシステム。
- ・生物多様性は難しい。
- ・港区の環境が今後も良好に維持されることを目指すのが戦略の基本。
- ・生物の調和が未来につながるものである。だから、物を大事にしなくてはいけない。昔いなかった魚がいてはいけない。
- ・いろいろな意見があり、団体でそれぞれ意見が違う。いつまでたっても議論が終わらない。でもその議論を待っている時間もない。
- ・行政や企業やNPOなど、それぞれが役割を持ってやるというのがよいのではないか。

どのような課題があるか

普及啓発

- ・インタープリターが欠けている。
- ・カエルの重要性を町の人にも理解して貰いたい。
- ・皆に知って貰うことが大切。啓蒙活動が不足している。

自然への姿勢

- ・カエルが出ると港区では苦情が出る。生物への親しみが失われている。
- ・子どもの自然観を大切にしたい。
- ・ビオトープ＝「とんぼ池」もしくは「森」という意見が多いが、草地は重要。
- ・三田台は草地だけでつまらない。管理している側としても草地だけではつまらない。沢山の子供達に参加して貰いたい。

その他

- ・破壊された自然を修復する視点で、港区でどのようなビオトープを作るべきなのか。
- ・蚊の問題 水の問題を数値化しろと言われる。評価が客観的にしづらい。

どういったビオトープを作っていきたいか。

ビオトープの価値

- ・ビオトープの経済評価の議論 幸福度指数の観点から、新しいビオトープの価値を生み出す。
- ・作るのが大変 土地も高い 浸透させることも難しい 大都会で里山を復活させることはほぼ不可能である。だから、小さくてもよいので、土地の記憶を甦らせるためのビオトープを作る。
- ・ビオトープネットワークも大切だが、日本の自然の豊かさや身近な自然に気付かせていくというツールとしてビオトープがある。

ビオトープネットワーク

- ・情報と人のネットワークが大切。
- ・小さいことからコツコツやることと、皆で集まって話し合うことで、ビオトープを離れ小島にしないようにする取り組みをつくる。
- ・多摩川までつなげることで、ビオトープの担保にもつながる。
- ・↑これをやるのが、とても大変。ひとつの団体では無理だが、様々な団体で協働する。

●ビオトープグループの宣言文●

ビオトープネットワークで土地の記憶を未来の子ども達につなげよう

このグループに参加した理由とともに、グループテーマの中で気になっていること

- ・ 経済と生物多様性について。 ・ 子どもや環境教育に興味がある。 ・ 都市にこそ生物多様性があると思う。
- ・ 市民の立場から、都市と生物多様性を語りたい。 ・ 都市の魅力とは？緑の質が量より重要では？
- ・ 地形と緑のつながりが重要である。 ・ 森ビルのビオトープで鳥類のモニタリングをし、それを評価している。
- ・ 都市づくりが生物多様性に与える影響について興味がある。
- ・ 都市計画のどのタイミングで生物多様性の概念を考えるべきか？ ・ よく利用される屋上緑化とはなんだろうか。
- ・ 会社では生物多様性が重視され始めている。「いきものがかり」といわれるような生物多様性の担当に配属された。
- ・ 都市緑地のあり方や企業と生物多様性について関心がある。社有地で生物多様性に貢献するようなことができないのか。
- ・ 子どもに、六本木ヒルズはうるさいし明るすぎて、生きものに良くない影響を与えていると指摘されたことがある。都市づくりを一様にするのではなく、場所によっては、生きものに快適な場所を創出したりとできないものか？

都市づくりと生物多様性

そもそも港区って？

- ・ 斜面林、ロイヤルグリーン、大使館の緑があることはアドバンテージである。斜面があることだけでも特徴的。
- ・ 緑が多いことで、ブランド化するのは？それによって、世界中から人が働きに来ちゃう？
- ・ 雨が多くて植物がほっといても育つ。つまり恵まれているということでは？
- ・ ハチの視点から見ると、それなりによい環境がある都市に見える。

課題や問題

- ・ 生物多様性のイメージは「可愛くない」。・ 有害生物とか不快な生きものを嫌がる。これはどう解決したらよいか？
- ・ 生物多様性が増えるということは、不快な生物と出会う確率が増えることも考えられる。
- ・ 屋上緑化の補助金は50%。メンテナンスのコストがかかることから、やる人はほとんどいない。行政は、施策があることをアピールするが、実際は成果が出ていない。

考え方

- ・ 環境として、いろんな生きものがあって、それを感じられる街づくりがいいと思う。
- ・ 生物に学ぶ「バイオミミクリー」などの概念を取り入れてもいいのではないかな。
- ・ 子どもや区民に、「都市で」ということを分かってもらう。
- ・ 子どもにいろんな興味をもたせることが大切である。そのためには、見る・触れること。
- ・ 無理に押し付けるのではなく、嫌いな人はそのままでもいい。受け入れてもらうには段階が必要。
- ・ ヘビを怖がる向きもあるが、ヘビの歴史（あれば）を感じたり キャラクター化すれば好かれる？
- ・ 生きものは怖くないのだよということを知ってもらう。
- ・ 情報が大事（そこにどんな生きものがいるか、その生きものはどのように増えるのかとか）。
- ・ 生きものは、環境があれば勝手に来る。30～40年かけて安定してきた街をこれから変えていくためには、人間が変わることに対する知識を持っていなければいけない。
- ・ 私有地・社有地であればいろんなことができる。
- ・ 私有地では維持管理費が問題になることがあるが、いいものは残したいと考える人もいる。→そのためには、「いい」とは何かの基準も必要。
- ・ 「個々のビルをどうするか」ではなく、「街をどうするか」を考えなければ^{まち}埒があかない。
- ・ 港区が生物多様性が豊かであることと、人がうまく暮らすことは別でもいいんじゃないか？
- ・ 企業の例は少数あるが、全体として、緑地に連続性を持たせること！
- ・ 生物多様性によって、区全体にどのようなキャラクターを持たせたいのか？シンガポールのような都市を参考に。



↑ グループの将来図
みなさんで描いた

●都市づくりグループの宣言文●

自然の高いポテンシャルを活かして 緑視本世界一、生活とビジネスの調和した街をめざそう

今日の話聞いて、暮らしと自然というキーワードで印象に残ったこと

港区の特徴を活かして

- ・昼の暮らしと夜の暮らし、人口の差を暮らしに生かせないか。
- ・段丘の緑を壊さざるを得ない開発の歴史があった。これからは、屋上緑化やビルをつくっていくことによって自然を再生できるのでは。ヒートアイランド現象の緩和も図れる。
- ・港区には「放置された」自然がある場所として、大使館や社寺があるのではないか。
- ・葛飾区は「水」が特徴だが、港区は起伏の複雑性が特徴であるように、土地それぞれで特徴があるため、地域の人々の意見が大切。港区は事業者が多いこと、海、川、山があるということで面白い戦略ができるのでは。

港区の自然について「気づき」が必要

- ・斜面林の中にも、マツバランのような希少な動植物が存在するかもしれない。
- ・希少種であるマツバランが見つかったということが印象的。そうした貴重な生物が存在することに、多くの人々は気付いていない。
- ・民有地も含めて、こうした場所を調査しておくことが重要ではないか。
- ・冊子だけ作っておしまいではなく、十分な普及啓発が必要。いい図鑑があるのでしっかり行政や教育機関が普及すべきだし、観察会などで伝えていくべき。
- ・港区の生態系をできるだけ「見える化」しておくといいのではないか。
- ・探せば身近に自然はあるが、自然はないものだという思い込みもあって、それに気づかれていない。まだ自然があるということを伝えることが大事。
- ・赤羽橋付近の職場で、古川にいる生きものを知人に紹介したら、その人も「気づき」を得て、生きものに気がつくようになった。
- ・気づきのきっかけを与えることが大事。(自然の見方を伝える機会が必要)。
- ・雑草という雑草はない、公園の花壇などで生態系を周知できるといい。

自然とは、何をさしているのか

自然⇄人工

- ・管理がすべて悪いわけではない。アメニティは大切。必ずしもみんなが生物多様性が好きなわけではないので、価値観の共有が必要。
- ・都市環境は孤立化した環境。その脆弱な環境の中で暮らしている生物がいることを念頭におくべき。
- ・管理された自然については、継続的な管理と、管理の仕方の2つが大事で、いい管理を見極める目が必要である。
- ・街路樹や公園の樹木は関東地方の在来種にして、身近な自然として大切にす。
- ・街路樹は日本の狭い道路の中で、制限された環境にいる。文化を変えないと、十分な街路樹の生育はできない？

自然とくらし

- ・昔から、暮らしのなかで自然からの豊かさを感じてきて、ほどよい自然との距離感があった。しかし、高度経済成長以降、せわしない生活を強いられていて、自然を感じ取る余裕もなくなった。今、植物や昆虫を見ることでいのちの輝きを再発見するようなことが必要では。自然を介して人もつながることができるはず。
- ・昼の人口が多いことから、他地域から来る人が自然を港区で感じられるかを考えてみよう。
→コンパクトな場所でも、自然を感じられるものがあるだろう。
- ・港区に農業・漁業がどれだけあるか、ないならば、どこから来ているかを考えるのが大事。

いきものに関心がない、大多数の人には、どのようにアプローチすべきか？

- ・現在の状況(変化した自然)を受け入れた状態から、自然を考えなければならない。
- ・五感で感じられる自然があることが大事では。 ・面白く伝えることが大事！
- ・「いきものみつけ」のような市民調査をやるといい。

港区で残したい自然とは何か？

普通の自然を残したい。
今残っている、昔の記憶(屋敷林・社寺林)。

都市型自然も残したい これから発展させていく自然

アメニティが大事。都市には都市の自然がある。
都市型のいい自然とは？ということとはみんなが話し合って姿を描いていけばいいのでは。
→都市型自然を守ってもらう主体として事業者を！

●くらしと自然グループの宣言文●

港区に残された自然 新たにつくられた自然 命の輝きを再発見し伝えていこう

生物多様性の保全、持続可能な利用のためのサプライチェーンについての意見

- ・地産地消、トレーサビリティが重要。
- ・生物多様性を守るサイクル、製品のサイクル、照らし合わせてつないでいく。
- ・生物多様性の取り組みは、企業の価値を高めるけども、余力がないと難しい。政府の支援が必要。
- ・消費者は安い物を選びがち。生物多様性に配慮した商品を選ぶ視点・意識が必要。
- ・3R（リデュース、リユース、リサイクル）はサプライチェーンと近いところにある。（一番近いのはリデュース。リサイクルはいちばん最後）。

生物多様性のためのサプライチェーンとして何をすべきかといったアイデア・知恵

企業や行政などが変わる

- ・企業（同業）でネットワーク形成。業界全体での取り組みが必要。（ゼネコンの談合は良くないが、サプライチェーンについては談合的な要素も必要？）
- ・消費者に、環境に配慮した商品を選んでもらうには、企業側が大きく変わることが必要。
- ・エコラベルなどの認証コストを下げる、

消費者が変わる

- ・消費者も“選ぶ”姿勢を示さないと企業も動かない。

つまり..

企業、消費者、政府、教育、認証制度（機関） みんな意識を変えないといけない。

港区のなかでなにをすべきか？

普及啓発

- ・港区としての情報発信の継続。
- ・消費者への意識啓発（現状では切迫感がない）。
- ・具体的にわかりやすく発信する（キャンペーン、キャッチフレーズ等々）。

行動の支援

- ・みんなの意識改革と港区独自の表彰など支援する。
- ・商品がどこからどういう風に流通するのか、もっと知ろうと思ってもらうように自治体含め後押しをする（頑張る企業への応援も）。
- ・エコポイントなどのインセンティブ。

情報共有化

- ・地元のみんに開かれた場をつくる。
- ・異業種間の意見交換の場を設ける。

具体的な行動

- ・資源利用を減らす。足元から低コストで。
- ・行政（港区）が適正に動いているかチェック。

●サプライチェーングループの宣言文●

企業、行政、区民が、情報共有を行い、港区版サプライチェーンの仕組みを作ろう



会場は活気に満ちていました！

その場で
事業者宣言が
書き上げられました！



1. 概要

区民をはじめとしたさまざまな主体と、「港区生物多様性地域戦略」に関する課題・目標・行動計画に関連する意見交換を行うことを目的として、専門家の講演と区民会議（いきもの作戦会議）からなるイベントを実施しました。生物多様性は、私たちの暮らしと密接なつながりがある大切なものだということが、参加者で共有することができました。

〔日時〕平成25年2月3日（日） 13:30～16:30

〔場所〕港区立エコプラザ

〔参加人数〕21名

〔当日の流れ〕

13:30 開会・環境課長のご挨拶とオリエンテーション

13:45 第1部 テーマ別話題提供

テーマ「食」：（社）大日本水産会 マリッ・エコパル・ジ ヲ事務局長 木上正士さん

テーマ「子ども・子育て」：NPO法人NAFA子育て環境支援センター専務理事 高橋京子さん

テーマ「働きかた」：NPO法人フザ・リソグ・ジ ヲ事務局長 徳倉康之さん

14:45 第2部 テーマ別「いきもの作戦会議！」開始

16:00 各グループの発表・共有

16:25 閉会のご挨拶とお知らせ

16:30 終了

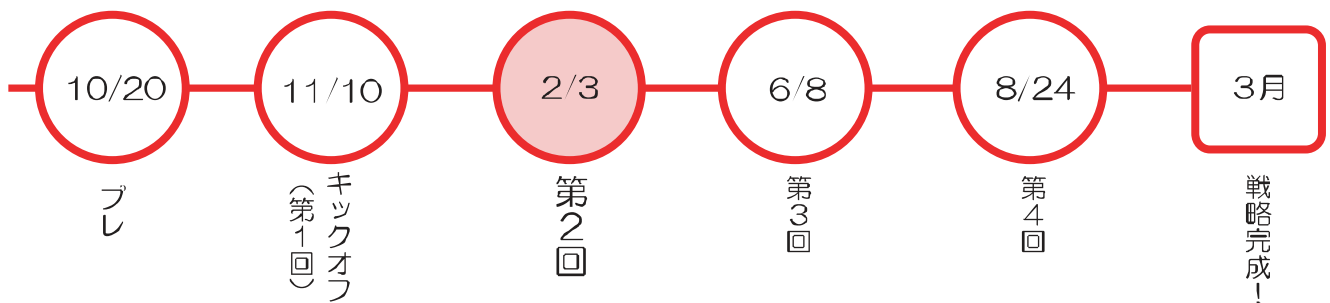


第1部 話題提供の様子



第2部 いきもの作戦会議の様子

〔いきもの作戦会議の流れ〕



2. 意見のまとめ

第2部の作戦会議では、「食」、「子ども・子育て」、「働きかた」の3グループに分かれて、話題提供者を交えて、自由に意見交換しました。話し合いは、次のステップで行われました。

① テーマを選んだ理由・第1部を聞いた感想

② 10年後、港区がどうなっているとうれしいか・そのために、私たちは何ができそうか

③ 10年後に伝えたいメッセージは？

第1部を聞いて感じたことや意見

「食」を選んだ理由

- ・ウナギが絶滅危惧種だから。
- ・江戸前ESD(環境学習)に参加中で、興味があったから。
- ・マリッポバ ルダ ヲに共感したから。
- ・森の幼稚園があるなら、海の幼稚園もやれたらいい。
- ・お寿司が好きだから。江戸前に興味があったから。
- ・幅広い年齢層が関わるテーマだから。
- ・食品メーカーに勤めていたから。身近なテーマだから。
- ・食品を選ぶ情報が欲しいと思ったから。
- ・魚が好きだから。

第1部を聞いた感想

- ・子ども達は(私たちも)食品がどうやってどこからきたのか知らない。
- ・アユ、アナゴなど身近な魚が江戸前にいるんだなあ。
- ・魚が減少したとのことだが、どうしたら増やせるのか。
→海をキレイにすればいいのか？森をつくれればいいのか？
- ・江戸前の海と魚を江戸時代のレベルまで戻すことが出来るのだろうか。
- ・「DASH海岸」や海の幼稚園といった楽しいとりくみを自分たちもやってみたい。

10年後、港区がどうなっているとうれしい？

食育体験の場が増えている！

- ・自分で捕ったものを自分で料理する体験の場。
- ・お台場での海苔づくり体験がもっと広がっている。
- ・行政・企業が参加しやすい枠組み。

「Made in 港区」が広がっている！

- ・港区産の魚を周知する取り組み。
- ・冷凍ではない、採れたてのシジミが手軽に食べられる。
- ・港区産の野菜がある。
- ・歴史も活かして「Made in 港区」でいろいろ潤う仕組み。
- ・港区産だけでメニューができる。

「食」の起源が身近な場所でわかる！

- ・東京湾の魚が増える。
- ・牧場で生きた牛や豚がみられる
- ・屋上の畑や花壇が増え、ミツバチも増える。
- ・土の地面がある。

身近な場所で安全安心な食材を手に入れたい！

- ・水がキレイで、安全で安心して継続して海苔が食べられる。

そのために、私たちは何ができそう？

小さな地産地消・循環の取り組みを地域で

廃校跡などの土地を利用してキノコ栽培・蜂蜜作り。鶏などの飼育。さらに企業によるゴミゼロノウハウの提供を取り入れる。

水をきれいにして、身近な場所でも魚が漁れるようにする

みんな(区民・行政・企業・大学など)をまきこんで運河を、水をキレイにする。そのための設計図をつくる。まずは区民(在住・在勤)が立ち上がるべき！

子どもが消費のあり方を考えられるような取り組みをする

- ・料理を作る体験をする(魚をさばいたりする)。
- ・大人が楽しそうにするという影響がある。
→お祭りをする。
→防災イベントで、材料からつくる料理体験をさせる。

10年後に伝えたいメッセージ

- 「自慢の出来る「Made in 港区」の食品がいっぱいある。」
- 「子どもの頃から「どこから食べ物がきているか」が分かる(生産者の顔がみえる)。」

➡ 港区に住んでいる人、働いている人が、まずは立ち上がり、例えば運河をキレイにすることなどを、行政・企業・大学・大使館が参加しやすい「設計図」をつくることで、巻き込んでいく。

第1部を聞いて感じたことや意見

「子ども・子育て」を選んだ理由

- ・高橋さんの話に共感したから。
- ・子どもの自然観に興味があるから。
- ・子育て中で、たまにしか自然に触れさせていないから。
- ・子どもと自然が分断されている体験を持っているから。
- ・第三台場など、自然の豊かな港区に興味があるから。
- ・港区には清流がない。子どもの遊び場がどうなっているのか興味があるから。
- ・ドイツの子育てにも興味があるから。
- ・孫の世代に興味があるから。
- ・未来の子どもたちのため、戦略を作りたいから。
- ・ネイチャーガイドをしていて、結婚もしたので子育てについて考えたいから。
- ・環境学習をしているが、対象が子育て中の方が多いので。

第1部を聞いた感想

■ 大人について ■

- ・親世代が土遊びをしていないから自然観、伝承、文化、行事が伝わらなくなった。
- ・大人が自然を怖がったら、子どもも怖がる。
- ・共働き世代の増加→保育所の必要性が増加している。
- ・先生自ら、親自らが子どもになって遊ぶ！
- ・リスク（危険）を排除してしまったがゆえに、学びが減った。リスク回避のためにも、大人がリスクを理解するためにも大人も一緒に遊ぶ。

■ 体験の場について ■

- ・東京の子どもは共通の言葉を持っていない。集団のなかでつくっても良いのでは。
- ・葉っぱジャンケンはいい！
- ・生死に関わらないレベルなら自然からリスクを受けるべき。→一緒に感動したり、気づいたりするべき。
- ・自然な形で身近な自然を生活の中に取り入れていくには、幼稚園・保育園での教育が大事。→社会みんなで協力することが必要。

10年後、港区がどうなっていると嬉しい？

自然を実感できる場所がある！

- ・子どものためのまちづくりをしたい。
- ・原っぱなどの、あまり手を入れていない、気軽に遊びに行ける場所。
- ・葉っぱをちぎったり、自由に遊べる公園。
- ・里山のようにダンゴムシからカブトムシまでいる場所。
- ・水の流れ。

子どもが自発的に遊べる！

- ・今は大人が間違っただけオモチャを与えてしまっている。→子どもは本来、本物の遊びや体験を知っている。
- 子どもだけで自発的に遊べる場や環境が必要では？

生物多様性に気づける教育になっている！

- ・「木育」が教育カリキュラムに入っている。
- ・子どもに分かりやすい言葉で伝える。

社会の体制を考えている！

- ・税金を払った者に返っていくような体制。

地域、世代や国籍を越えて交流している！

- ・必要な場（保育の場）でネイチャーガイドができる、団体の枠を越えた地域連携。
- ・おじいちゃん、おばあちゃん世代と孫の世代の交流。
- ・ガキ大将が10人くらいの子どものつれてくるような街。→港区の特性を生かして国際色を入れる。

そのために何が出来る？

- ・木材だけでできている所をつくる。
- ・子どもが本来持っている社会性を延ばしてあげられる教育が必要→放し飼いがいいのでは？
- ・港区に多いものの活用（斜面林、水路がある昔からの屋敷、相続で売却される土地）
- ・バスで1時間くらいの街と連携して交流。参勤交代。

10年後に伝えたいメッセージ

こんな場で、伝承、教育をできたらいいな～

- ・生命(いのち)にふれられる場。
- ・子どもたちが自分の好奇心で自由にできる場。
- ・いろんな世代が混ざる場。
- ・リスクにもふれる場。
- ・子どもが子どもらしく助け合う場。
- ・保育園・幼稚園の充実した世の中。
- ・「里山里海」

第1部を聞いて感じたことや意見

- ・ 働きかたの多様性と生物多様性がつながりにくいと感じる。
- ・ 生き方の多様性と自然との共生はつながるはずだ。
- ・ 自分もワークライフバランスで悩んでいる。
- ・ 港区で働く人にとっての生物多様性とは何だろう？
- ・ 子育ての話が女性の問題として扱われることはおかしい。
- ・ 男女共同参画に関する法律や施策をもっと区民に知ってほしい。
- ・ 働きかたと生物多様性の接点ってなんだろう？

働きかた・生き方、ワークライフバランスと生物多様性の接点はコシでは？

生物多様性に関する活動をしている人自身が、活動どっぴりで**ワークライフバランス**がとれていないことが多いのでは？

生活そのものが生物多様性を感じられる場。
だから、仕事ばかりで家事や育児に携われないと、生物多様性への感謝も感じられない！

価値観の多様性は生物多様性・働きかたの多様性・人の個性の多様性。
→これも生物多様性だ。

生活も仕事も趣味も・・・、**いろんなことがある**というのを知ることが大事。何かに100%注ぐと視野が狭くなり、感謝や想像力が持てない。

10年後、港区がどうなっているとうれしい？

- ・ 「19時まで働くのは働きすぎ」というような社会。
- ・ 生活時間帯の8割がオフィスワークだから、働く中に、**生物多様性の視点**が入るといい。

徳倉さんからのヒント？

- 大企業でダイバーシティ推進室というのがある。多様性を受けれないと成り立たない時代？
- ワークライフバランスを考えるということは、「思いやり」を持つことでは？
- それぞれ持っている多様性の意味のベクトルを合わせる必要がある。

そのために何ができる？

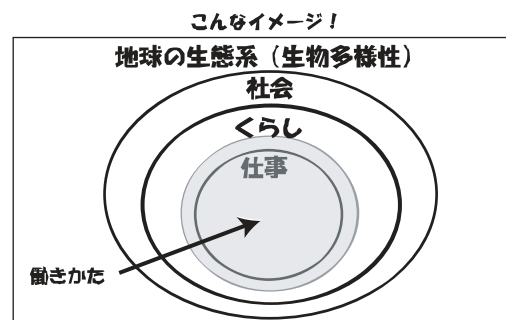
- ・ **命を大切に**することと**思いやり**を持つこと。
- ・ 企業がワークライフバランスを尊重する。
- ・ **生物多様性のためになにができるか考える場**を設ける。
- ・ **多様な人々がお互いを理解する場**を設ける。
- ・ **働きかたを考える場**に生物多様性の視点をいれる。 →支援が必要。
- ・ 港区には在勤者が多いが、生物多様性について港区内で学んだことを、区外の居住地で生かすことも大事。
- ・ 仕事や育児がすべてではない。**他の趣味や育児等を尊重**する。
- ・ さまざまなくらしの間面で生物多様性の恵みを受けているという**想像力**をもつ。

これまでのキーワードをまとめると・・・

価値観の多様性・生活の仕方の多様性これも含めて生物多様性

→**思いやり 想像力 尊重**

→**考えるための場をつくっていこう（行動する場、話し合う場など）**



「働きかた」って、仕事、暮らし、社会との関わりかたでは

「働きかた」の中で生物多様性とつながることができる、そんなメッセージが残せたら・・・というところで時間切れでした！